

1. インターンシップに参加した理由

私は、2021 年度スクールインターンシップの短期型を科目登録し、8 月の後半から 9 月の中旬までの計 2 週間、城陽市立城陽中学校で研修生として活動しました。

私がスクールインターンシップに参加した理由は、自分が教師として学校現場で働いていくということの想像ができていなかったこと、自分は本当に教師になり、生徒のために働いていきたいのか、自分自身の教員になる覚悟のようなものを確かめるために参加しました。また、教育実習に行く前に、あらかじめ今の中学生の様子を知りたいという思いもありました。

2. 研修内容

研修期間中に私が行ったことを列挙すると、登下校時に正門で挨拶、授業見学/補助（見学した授業：全学年の理科、美術、技術、道徳、数学、国語）、テスト採点、授業準備の手伝い、朝学活の進行、体育大会準備/手伝いなどでした。教育実習と大きく違う点は授業を実際にするかしないかだと思います。私は授業をすることはなかったので、その分、多くの教科の授業見学をしたり、理科の授業を各クラス見比べたり、また、特別支援学級に行ったり、様々な授業に参加しました。授業を見て回ることで、生徒の授業の受け方、授業へのタブレットの取り入れ方、発問の工夫など多くを吸収することができたと思います。

3. 研修で得たこと

コロナ感染の拡大により、実験や実習ができない状態での授業の工夫点として、理科では教員が実験を行っている動画を撮影し、動画を授業でタブレットのアプリを用いて共有していました。この実験動画の撮影に参加したのですが、動画自体は 10 分程度でも撮影には 1 時間半かかったことに授業準備の大変さを身に染みて感じました。また、理科の授業を 4 クラス見比べると、クラスにより同じ内容の授業でも反応が全く異なっていることに驚きました。大学で行う模擬授業では、発問をしても突拍子のない回答はあまり返ってきませんし、同じ授業をして全く異なる返答が来るような経験はありません。この研修で、クラスによって授業の展開の仕方を変えたり、発問を変える必要性を目の当たりにしました。また、タブレットを使って実験の考察を各自で作成しているのを机間巡視の時にしてみると、生徒によってまとめ方、結果のとらえ方、表現の仕方がまるで違っていました。ICT の利用と、生徒の個性、強みを見つけることができる授業を見ることができ、自分ならどう授業を展開していこうかと考えるきっかけづくりができました。

4. 最後に

この研修期間中に城陽中学校のほとんどの教員の方々と話をして感じたのは、教師は常に生徒のことを考えているということです。また、教員の方々が生徒と会話しているときの表情は笑顔であることがほとんどでした。短期間でしたが、教員側として学校に行き、生徒のことを他の教員の方々と一緒に考え、授業の展開について議論する時間はすごく充実していました。そして、自分はやはり学校で働きたいと改めて感じました。インターンシップに参加する前は迷いや、不安を感じていいと思います。少しでも学校を見てみたいと思う気持ちがある方はぜひ参加してほしいと思います。確実に何かを得られる、充実した期間なるはずです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。